

■ 会社の概要 (平成25年3月31日現在)

商 号：株式会社 ノジマ(JASDAQ:7419)

英 文 名：Nojima Corporation

本社所在地：〒220-6126
神奈川県横浜市西区みなとみらい二丁目3番3号
クイーンズタワーB 26階

設 立：昭和37年4月

資 本 金：43億2,317万円

役 員：●取締役 兼 代表執行役社長 野島 廣司 ●取締役(社外) 星名 光男
●取締役 兼 代表執行役専務 三枝 達実 ●取締役(社外) 松嶋 英機
●取締役 兼 執行役 福田 浩一郎 ●取締役(社外) 梅津 武
●取締役 兼 執行役 鍋島 賢一 ●取締役(社外) 五味 康昌
●取締役 兼 執行役 野島 亮司 ●取締役(社外) 久寿良木 健
●取締役 兼 執行役 金高 英紀 ●取締役(社外) 野村 秀樹
●取締役 兼 執行役 山内 渉 ●取締役(社外) 神谷 光治
●取締役 兼 執行役 石坂 洋三 ●執行役 佐藤 丈三
●取締役(社外) 春名 利昭 ●執行役 倉持 昭彦
●取締役(社外) 木村 喬 ●執行役 広瀬 哲夫
●執行役 小鈴 信雄
●執行役 温 盛 元

(平成25年6月22日現在)

従 業 員 数：社員 1,648名 (契約社員・パートタイマー 2,431名)

株主優待のご案内

株主優待券 3月31日及び9月30日現在で議決権を有する株主に対し、「優待割引券(最大10%割引)」を年2回贈呈

贈 呈 基 準 所有株式数100株以上500株未満の株主に対し10,000円分の優待割引券を、同500株以上2,000株未満の株主に対し25,000円分の優待割引券を、同2,000株以上の株主に対し50,000円分の優待割引券を、それぞれ半期毎1回、贈呈します。

利 用 方 法 現金、デビットカード、ノジマジャックスカード、ノジマショッピングクレジットによる支払いの場合には優待割引券の使用により購入金額の10%が割引になります。またクレジットカード、ノジマエポスカードによる支払いの場合には優待割引券の使用により購入金額の8%が割引になります。但し、ノジマオンラインでの購入の場合は後日ノジマオンラインポイントにてポイント返還、または相当額を銀行振込にて割り戻します。詳細については、株主優待券同封書類をご参照ください。

有 効 期 限 ●3月31日発行基準の優待割引券 / 翌年1月31日まで有効
●9月30日発行基準の優待割引券 / 翌年7月31日まで有効

取 扱 店 舗 ●株式会社ノジマの全店舗(詳しくは当社ホームページ (http://www.nojima.co.jp)をご参照ください)
●ノジマオンライン
※店舗のない地域にお住まいの株主で、ご優待割引券を使用して、当社の取り扱い商品をお買い求めになりたい方は、ノジマオンラインでのご利用をお薦めします。

Nojima
http://www.nojima.co.jp

株式会社 ノジマ

〒220-6126 神奈川県横浜市西区みなとみらい二丁目3番3号 クイーンズタワーB 26階
TEL.050-3116-1212(代) FAX.050-3116-1250

「投資家のみなさま」専用メールアドレス info@nojima.co.jp

■ ノジマオンライン ホームページURL
■ ノジマオンライン本店 PC版 http://online.nojima.co.jp/
■ ノジマオンライン本店 モバイル版 http://online.nojima.co.jp/mobile/

■ 株主メモ (平成25年3月31日現在)

決 算 期 毎年3月31日に決算を行います。

定 時 株 主 総 会 毎年6月に開催いたします。

基 準 日 3月31日

中間配当基準日 9月30日(中間配当を実施する場合)

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒100-8212 / 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(お問い合わせ先) 〒137-8081 / 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711(フリーダイヤル)

公 告 掲 載 電子公告

公告掲載URL
http://www.nojima.co.jp/ir

※ やむを得ない事由により電子公告によることのできない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。



スポーツを通じ日本を元気に

Nojima

投資家のみなさまへ

第51期 事業報告書 平成24年4月1日▶平成25年3月31日



■ ノジマの志し

お客様に
デジタルGS4を普及させ、人類の発展に貢献する。
【Goods・Soft・Support・Service・Solution】
デジタル一番星

■ 全員経営理念

～お客様にさらに信頼されるノジマへ～

- 社会に貢献する経営
- オープンで公正な経営
- 独創的で革新的な経営
- 人間愛がある経営
- 向上心がある経営

■ ごあいさつ P. 2	■ 決算の概況 P. 8
■ Q&A P. 3～4	■ 連結キャッシュ・フロー計算書 P. 9
■ トピックス P. 5	■ 配当金の推移 P. 10
■ 当社関連主要記事 P. 6	■ 四半期数値変動 P. 10
■ 財務ハイライト P. 7	■ 会社の概要・株主メモ P. 11

■ ごあいさつ

日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社は平成25年3月31日をもって、第51期の営業を終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、欧州債務問題など海外経済を巡る不確実性はあるものの、新政権の経済政策への期待が表れてきており、日経平均株価の上昇や消費マインドの改善等、景気先行きへの期待が高まっております。

家電流通業界におきましては、依然として映像関連商品の需要拡大が期待できず、市場規模の縮小により厳しい状況が続いているものの、スマートフォン・タブレット等の通信端末の販売拡大等、明るい兆しも見られております。

このような状況下におきまして、当社グループは、「デジタル一番星」「お客様満足度No.1」を実現するために、「選びやすい売場」と「お客様の立場に立った接客」を掲げ、コンサルティングセールスやソリューション提案の強化に取り組んでまいりました。

また、インターネット通販サイトの名称を「ノジマオンライン」に変更し、実店舗とのポイント相互利用を開始する等、インターネットでの販売強化にも努めてまいりました。

店舗設備面につきましては、厚木本店、野比店など8店舗の新規出店を行いました。

なお、販売費及び一般管理費については、大幅な削減を実現いたしました。

以上の結果、当連結会計年度における売上高は1,999億76百万円（前年同期比94.8%）、営業利益は20億70百万円（前年同期比278.4%）、経常利益は34億82百万円（前年同期比106.7%）、当期純利益は18億48百万円（前年同期比87.2%）となりました。

今後もグループの総合力を高めながら、投資家の皆様のご期待に応えられるよう、更なる販売強化と収益体質の改善に努めてまいりますので、皆様の変わらぬご支援とご指導をよろしくお願いいたします。



代表執行役社長 野島 廣司

Q&A

Q 現在の事業環境と第52期通期の見通しについて教えてください。

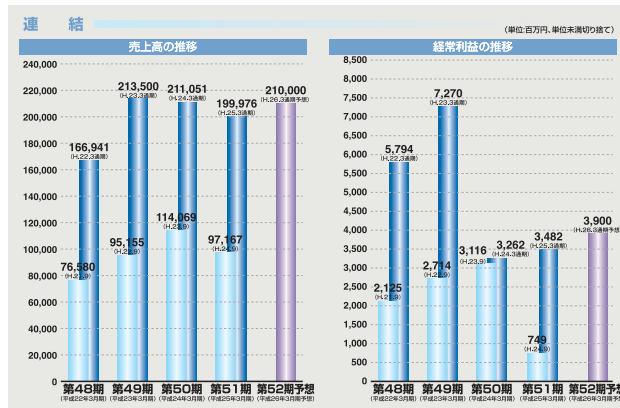
A 家電量販業界におきましては、AV関連商品を中心に需要が落ち込み、当面は回復が見込めない状況の中で、特に薄型テレビを中心に販売数の減少が続いています。一方で、新政権による経済政策の効果で消費マインドには改善が見られ、価格より性能を重視する消費者も増えていることから、高性能品を中心に単価は下げ止まる傾向にあります。

また、電気料金の値上げを受けて、消費者の省エネ家電や節電関連商品への関心は引続き高まっております。LED電球やLEDシーリングライトは、高機能・低価格化が進み、従来製品からの買い替えが進んでいるほか、エアコンや冷蔵庫についても、省エネ型の高単価商品を中心に底堅い需要があります。

スマートフォンについては、幅広い年齢層へと普及いたしました。新製品も続々発売されており、当社においても、通信関連機器やアクセサリ、サブライについては販売を大きく伸ばすことができいております。また、タブレット端末につきましても、低価格端末の登場が急速な普及を後押ししており、PCの代替として販売台数を飛躍的に伸ばしております。

なお、来年4月に予定されている消費税増税前には、高額商品を中心に駆け込み需要が起こることも予想されます。

当社の第52期の通期業績につきましては、積極的な新規出店と、前期より取り組んできた販管費削減、在庫適正化等の施策の効果もあり、売上高は2,100億円(前期比105.0%)、営業利益は26億円(前期比125.6%)、経常利益は39億円(前期比112.0%)を見込んでおります。



Q 今後の事業展開についてお聞かせください。

A 家電量販業界におきましては、当面の間は市場規模の縮小が続くとともに、ネット通販との競合やホームセンター等他業態からの進出もあり、激しい競争が続く見通しです。

このような経営環境のもと、当社は、以下のような施策を行うことで、お客様満足度と収益の向上を目指してまいります。

■収益体質の強化

今期も、生産性の向上と収益体質の強化に取り組めます。在庫を適正な水準に保つためのマネジメントを強化し、お客様の視点に立って、お客様に喜ばれる商品の品揃えを強化してまいります。あわせて、不要な値引きに頼らない仕入・販売手法を確立することで、収益力の向上を図ります。

また、全社を挙げて取り組んできた販管費削減については一定の成果が上がり、前期の増益に大きく寄与しましたが、今期も、経営スローガンに「入るを計りて出するを制す」を掲げ、経費削減をさらに徹底してまいります。

■「コンサルティング」によるノジマファンづくり

当社の強みは、お客様と多くの接点を持ち、お客様のお話を聞いて潜在ニーズを掘り起こす「コンサルティングセールス」にあります。その特長を活かして、「ノジマファン」のお客様を増やすために、コンサルティング人材の育成に引き続き注力します。

なお、人材採用につきましては、2013年4月は新卒281名が入社いたしました。2014年3月も約400名の採用を予定しております。新卒採用は将来への投資と位置付け、引き続き意欲的な採用を行ってまいります。

また、販促活動については、以前より「Facebook」「Twitter」などのSNSを積極的に活用しておりますが、前期は、スマートフォン普及率に比例してシェアが伸びている「LINE」にいち早く着目しました。家電量販店初となる「LINE」の公式アカウントを取得し、販促に活用しております。

■プライベートブランド「ELSONIC」の拡充

当社のプライベートブランド「ELSONIC」については、商品ラインナップを大幅に充実させてまいりました。テレビにつないで大画面でスマートフォンアプリが楽しめる「スマテレスティック」や、iPad対応のモバイルバッテリー、多彩なLED製品群など、オリジナリティ溢れる機能と高い品質、リーズナブルな価格が目玉を集め、多くのメディアにも取り上げていただいております。PB商品は利益率も高いことから、今後もラインナップの拡充と売場での積極展開を図ってまいります。

■積極的な新規出店を継続

店舗展開につきまして、前期は厚木本店、野比店、長泉店など計8店舗の出店を行いました(うち2店舗はスクラップアンドビルド)。東京スカイツリー効果で賑わう浅草にも「浅草EKIMISE店」をオープンし、好調な来店客数を維持しております。

今期も引続き約10店舗の新規出店を行う予定です。1,000坪を超える大型店や、みなとみらい地区にオープンする注目の商業施設「MARK IS みなとみらい」など注目スポットへの出店にもチャレンジし、成長率No.1を目指します。

また、六本木店は、スマートフォン・タブレットに特化した日本初のGALAXY専門ショールーム「GALAXY Station」を開業し、リニューアルオープンいたしました。

今後も映像演出やトークイベントを定期的開催する予定であり、ノジマの情報発信拠点として、スマートフォン・タブレットの最新情報をお客様へお届けしてまいります。

■ノジマ 厚木本店(2012年10月27日 オープン)



■ノジマモバイル アリオ鷺宮店(2012年11月22日 オープン)



■ノジマ 野比店(2012年11月17日 オープン)



■ノジマ 葛西店(2012年10月6日 オープン)

■ノジマ 島田店(2012年10月20日 オープン)

■ノジマ 長泉店(2012年11月10日 オープン)

■ノジマ 府中四谷店(2012年11月17日 オープン)

■ノジマ イオンつくば店(2013年3月15日 オープン)

■ノジマ MARK IS 静岡店(2013年4月12日 オープン)

■ノジマ 浅草EKIMISE店(2012年11月21日 オープン)



六本木店では、5月23日、話題の新製品「GALAXY S4」を日本一早く発売開始。

多くのお客様やマスメディアの取材等で、深夜の店頭は大変な賑わいとなりました。

都県別店舗数(ノジマ店舗)
(2013/3末)

所在	店舗数
神奈川県	31
東京都	24
埼玉県	16
千葉県	10
茨城県	3
静岡県	11
長野県	1
新潟県	9
山梨県	4
計	109

都県別店舗数(通信専門店)
(2013/3末)

所在	店舗数
神奈川県	25
東京都	15
埼玉県	13
千葉県	5
静岡県	4
長野県	1
新潟県	1
愛知県	1
香川県	10
愛媛県	6
高知県	2
島根県	3
鳥取県	3
計	89

通信専門店の店舗数は、単独店舗のみを記載しております。

ノジマ、来期出店10店超

14年春新卒入社も最多に

首都圏地盤の家電販売で、来期には定年か、郊外でも他の大型店の開業を打つ前倒しした。ノジマは13年3月期の新規出店再開。郊外やシニア向けに、13年3月期の新規出店再開。郊外やシニア向けに、13年3月期の新規出店再開。郊外やシニア向けに、13年3月期の新規出店再開。

▲日経MJ(2013.3.11)

スマホのアプリ 大画面で

商品名は「スマテレスティック」で、米グーグルのOS「アンドロイド」に対応する。テレビのHDMI端子に挿入して使う。中国のメーカーから買付け、店舗や直販サイトで販売する。価格はスティック状の本

アンドロイドに対応

体とワイヤレスキーボードのセットで1万9800円。2月末までは1万7800円で販売する。家電量販店では、アナログ放送から地上デジタル放送への移行に伴う特需の反動で、テレビ販売の苦戦が長引いている。新規の機器をPBで供給することで、テレビ市場のテコ入れを図りたい考えだ。

▲日本経済新聞(2013.2.13)

ノジマ、PBで独自色

脱「メーカー品ベース」すき間商品 中国から調達

家電量販店のノジマは12日、テレビに挿入するインターネット接続機能を持つ「スマートテレビ」として使えるようになる機器を発売した。テレビの大画面でインターネットやスマートフォン、高機能携帯電話のアプリを楽しめる。同社のプライベートブランド「エルソニック」(PB)「エルソニック」で取り扱う。

TV不振補う

氏は「自営をロボットの、小売業の不振を補う。中国のメーカーから買付け、店舗や直販サイトで販売する。価格はスティック状の本

▲日経MJ(2013.3.6)

当社関連主要記事

ベトナム家電量販店 ノジマが出資

首都圏地盤とする家電量販店のノジマは7日、ベトナムの同業、売上高は約1兆6900億円の「トラン・アイン・デジタルワールド」(約80%)だった。ノジマは第三者割当増資の引き受けなどを進めて、約5億円でチャン・アイン株を取得する。役員を派遣して店舗の整備など日本で培った多店舗経営ノウハウを提供する。

▲日本経済新聞(2013.5.8)

接客は「勝負服」で チームPRするエース

MF 山根 ひかり

「接客は勝負服」でチームPRするエース。山根ひかり選手は、ベトナムの家電量販店「トラン・アイン・デジタルワールド」で接客を担当している。彼女はサッカー選手としての経験を活かして、接客に打ち込んでいる。



▲神奈川新聞(2013.4.3)
「ノジマステラ神奈川」の選手は、午前中はノジマの店舗や本部で勤務し、午後からはサッカーの練習に励んでいます。当社のサポート体制は、企業スポーツの新しい形として注目を集め、テレビ、新聞、雑誌など数多くのメディアに取材・掲載されています。

トピックス

1 ベトナム家電量販店との資本業務提携に合意

当社は、ベトナムにて家電小売事業を展開するチャンアインデジタルワールド株式会社(英語名:Tran Anh Digital World Joint Stock Company、ハノイ証券コード:TAG)との間で、資本業務提携と同社への役員派遣について合意に至りました。

チャンアインデジタルワールド社は、成長著しいベトナムの家電小売市場において強い存在感を持つベトナム家電小売業界のリーディングカンパニーの一つであり、特にベトナムの首都ハノイ市を中心とした強固な地盤を持っています。

この資本業務提携により、当社が長年培った店舗運営や多店舗展開のノウハウを提供することで、戦略パートナーとなるチャンアインデジタルワールド社がベトナム家電小売市場において一層の確固たる地位を築くことが期待されます。また、当社は、今後更なる成長が期待できる東南アジア家電小売市場への本格進出を図ってまいります。

今後は、資本業務提携に関する具体的な条件の交渉や、必要な手続きを進めてまいります。



2 家電量販店初! 「LINE」に公式アカウントを開設

3月19日より、無料通話・メールアプリ「LINE」にノジマ公式アカウントを開設しました。家電量販店の「LINE」公式アカウント開設は、ノジマが初めてです。

ノジマFacebookやブログでおなじみのノジマ公式キャラクター“コンさる”が、ノジマのセール・イベント情報を配信するとともに、ノジマ各店舗で最大20%OFFとなるクーポンなど、各種特典がご利用いただける情報も随時更新しております。

公式アカウント開設記念で実施した“iPhone5」「XperiaZ」を100台無料プレゼント”キャンペーンなどが好評で、友達数が17万人を超える人気アカウントとなっております。

今後も、当社の魅力をより多くのお客様にお伝えするために、SNSを始める最新ツールを利用したファン作りに積極的に取り組んでまいります。



3 「ノジマフットボールパーク」がオープン!

相模川沿いに建設していた、ノジマステラ神奈川の本拠地グラウンド「ノジマフットボールパーク」がこのほど完成いたしました(所在地:神奈川県相模原市南区新戸478番1、JR相模線 相武台下駅より徒歩10分)。

同グラウンドは、日本サッカー協会公認の人工芝グラウンドであり、ノジマステラ神奈川の本拠地として、チャレンジリーグ(なでしこリーグ2部)の公式戦も多数開催されます。また、アメリカンフットボールチーム・ノジマ相模原ライズの練習場としても使用いたします。

ノジマステラ神奈川の本拠地開幕戦が行われた4月21日には、こけら落としイベントを開催。完成記念セレモニーでは神奈川県黒岩祐治知事や、日本サッカー協会の小倉純二名誉会長にもご臨席を賜り、ご祝辞を頂戴しました。

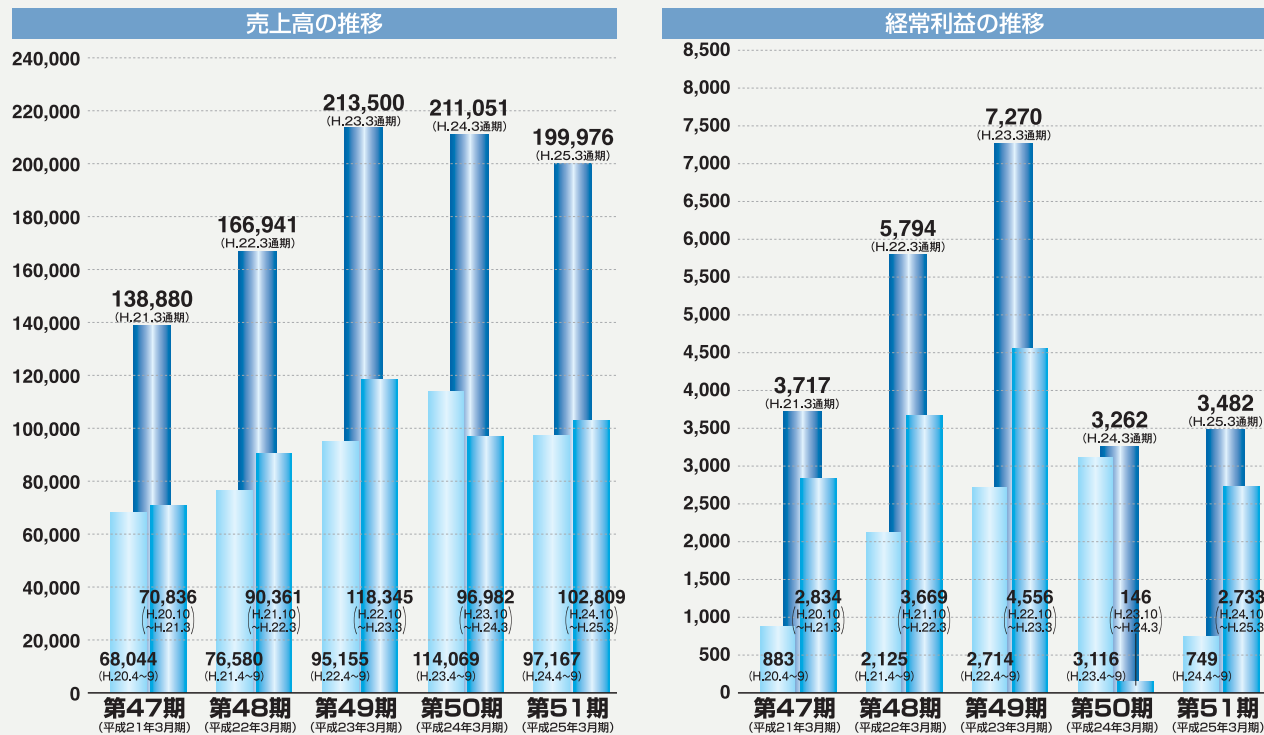
新設の本拠地グラウンドを味方につけ、地域の皆さまとともに、ノジマステラ神奈川は「なでしこリーグ」入りを目指して奮闘中です。今期も皆さまのご声援をよろしくお願いたします。



財務ハイライト (平成24年4月～平成25年3月)

連結

■ 売上高 / 1,999億 76百万円 ■ 経常利益 / 34億 82百万円 ■ 純利益 / 18億 48百万円 (単位:百万円、単位未満切り捨て)



(単位:百万円、単位未満切り捨て)

連結	第47期 平成21年3月期	第48期 平成22年3月期	第49期 平成23年3月期	第50期 平成24年3月期	第51期 平成25年3月期
売上高	138,880	166,941	213,500	211,051	199,976
経常利益	3,717	5,794	7,270	3,262	3,482
純利益	2,624	4,629	3,708	2,119	1,848
1株当たり純利益(円)	131.91	243.41	198.16	111.81	96.96
総資産	47,450	59,836	64,054	65,688	70,631
純資産	13,563	17,218	20,678	22,405	24,088

決算の概況 (平成25年3月31日現在)

連結

貸借対照表 平成25年3月31日現在。前期は平成24年3月31日現在。

	第50期	第51期
資産の部		
現金及び預金	3,823	5,180
受取手形及び売掛金	14,395	15,574
たな卸資産	19,824	17,528
その他	7,037	6,358
貸倒引当金	▲2	▲1
流動資産合計	45,079	44,640
建物及び構築物	5,348	7,182
土地	4,940	7,993
その他	2,116	1,849
有形固定資産合計	12,405	17,025
無形固定資産合計	720	926
敷金及び保証金	5,989	6,015
その他	1,530	2,056
貸倒引当金	▲37	▲33
投資その他の資産合計	7,483	8,038
固定資産合計	20,609	25,990
資産の部合計	65,688	70,631

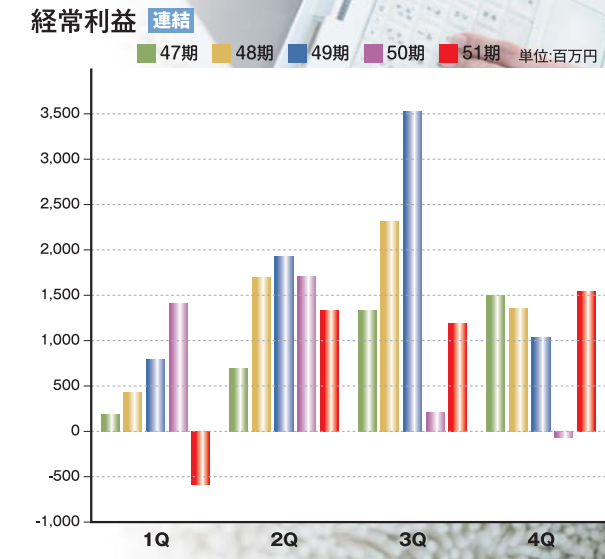
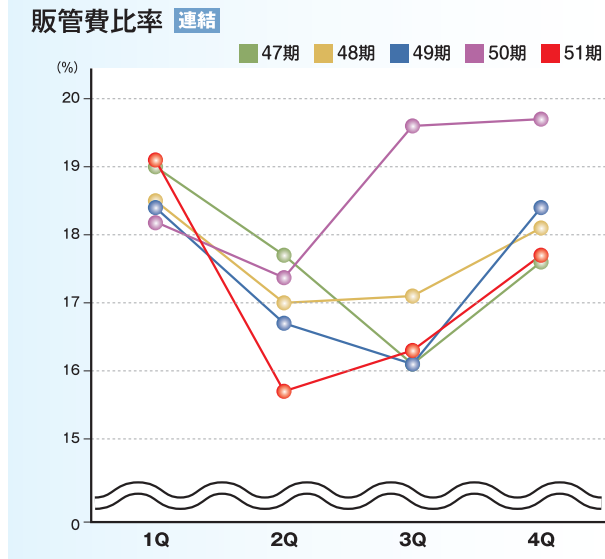
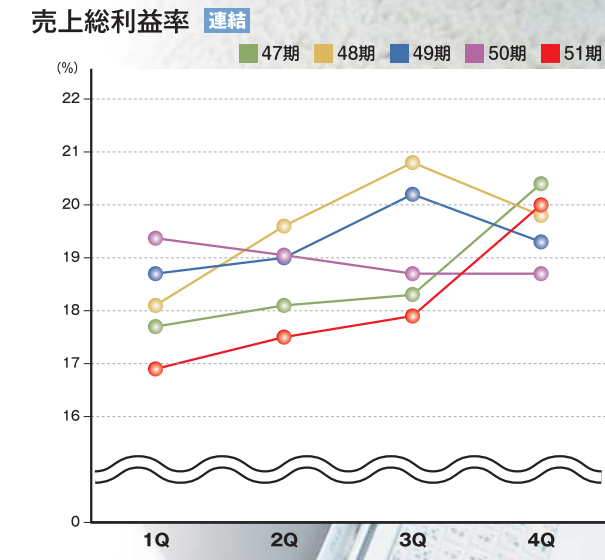
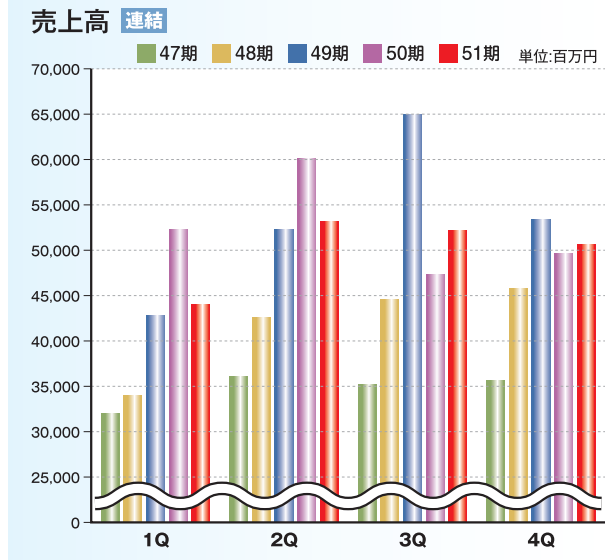
(単位:百万円、単位未満切り捨て)

損益計算書 平成24年4月1日から平成25年3月31日まで。前期は平成23年4月1日から平成24年3月31日まで。

	第50期	第51期
負債の部		
支払手形及び買掛金	21,234	21,266
短期借入金	500	—
1年内返済予定の長期借入金	2,472	3,246
1年内償還予定の社債	250	250
未払金	3,143	3,033
未払法人税等	—	1,446
ポイント引当金	2,962	3,093
その他	2,649	2,656
流動負債合計	33,212	34,993
社債	375	125
長期借入金	5,408	6,752
販売商品保証引当金	2,025	2,240
退職給付引当金	1,450	1,626
その他	809	805
固定負債合計	10,070	11,549
負債の部合計	43,283	46,542
純資産の部		
資本金	4,323	4,323
資本剰余金	4,294	4,284
利益剰余金	14,705	16,172
自己株式	▲1,043	▲868
株主資本合計	22,280	23,911
その他有価証券評価差額金	29	40
新株予約権	96	136
純資産合計	22,405	24,088
負債純資産合計	65,688	70,631



■ 四半期数値変動



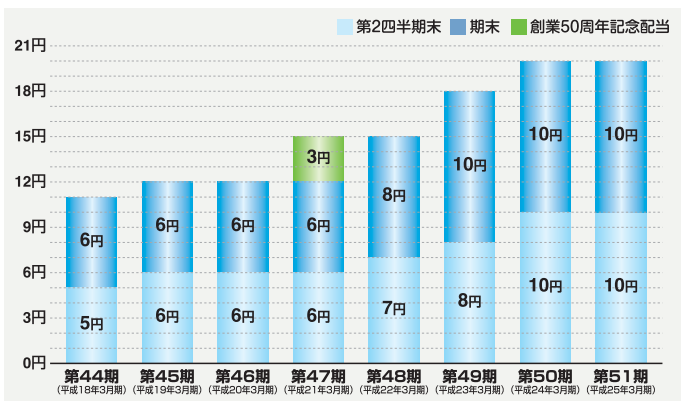
(注)売上高には消費税等は含まれておりません。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで。前期は平成23年4月1日から平成24年3月31日まで。

営業活動によるキャッシュ・フロー			投資活動によるキャッシュ・フロー				
区分	期別	第50期(通期)	第51期(通期)	区分	期別	第50期(通期)	第51期(通期)
税金等調整前(当期)純利益		3,100	3,205	投資有価証券の取得による支出		▲13	▲624
減価償却費		1,736	1,732	有形固定資産の取得による支出		▲4,016	▲6,145
減損損失		36	308	無形固定資産の取得による支出		▲236	▲714
負ののれん償却額		▲1,062	—	差入敷金及び保証金の差入による支出		▲866	▲440
退職給付引当金の増減額		162	175	差入敷金及び保証金の回収による収入		116	139
支払利息		151	138	その他		▲31	▲14
投資有価証券評価損益(▲は益)		▲24	▲112	投資活動によるキャッシュ・フロー		▲5,049	▲7,799
売上債権の増減額(▲は増加)		▲1,479	▲1,179	財務活動によるキャッシュ・フロー			
たな卸資産の増減額(▲は増加)		3,388	2,296	区分	期別	第50期(通期)	第51期(通期)
ポイント引当金の増減額(▲は減少)		484	130	短期借入金純増減額(▲は減少)		▲260	▲500
仕入債務の増減額(▲は減少)		2,290	32	長期借入による収入		4,124	4,800
その他		97	828	長期借入金の返済による支出		▲2,960	▲2,682
小計		8,882	7,555	社債の償還による支出		▲250	▲250
利息及び配当金の受取額		40	39	配当金の支払額		▲380	▲381
利息の支払額		▲154	▲138	その他		▲69	136
法人税等の支払額		▲3,704	575	財務活動によるキャッシュ・フロー		203	1,122
営業活動によるキャッシュ・フロー		5,063	8,032	現金及び現金同等物の増額			
				区分	期別	第50期(通期)	第51期(通期)
				現金及び現金同等物の期首残高		3,541	3,759
				現金及び現金同等物の期末残高		3,759	5,115

■ 配当金の推移



当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置づけた上で、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保を勘案し、継続して安定した配当を実施することを基本方針としております。

また、当社は、第2四半期末と期末の年2回の剰余金の配当を行うことも基本方針としております。なお、剰余金の配当の決定機関は取締役会です。

第51期の期末配当金につきましては、1株につき10円とさせていただきます。